

<PGI 学術講演抄録> ※無断転載を禁じます

『歯学病因論と臨床 I』

植木弘之 (白水貿易株式会社)

病因論とは「病」の原因を論じることであり、基礎研究による原因究明が必要となります。つまり、病の原因が究明されれば「予防」が可能となります。これは過去の歴史に遡ると人は死に至る感染症との戦いで、原因となる細菌・ウイルスを突き止め命をつないできました。

近年は死に至る感染症は稀である代わりに多因子な慢性的疾患が増え、治療が難しく予防が推奨されているようにみえます。さて、歯科疾患は正に多因子疾患であり単一の視点では原因を究明することは難しく、未だに病因論としてコンセンサスを得ていません。

今回はこの多因子に着目し歯科疾患をみつめ、病因論の確立が科学的背景によるものなのかを客観的に見つめてみたいと思います。